

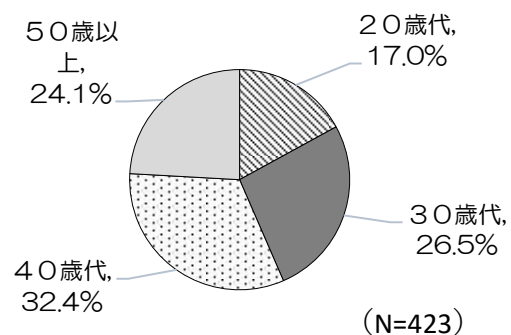
市職員アンケート

1 回答者の属性

問1 回答者の年齢や性別等

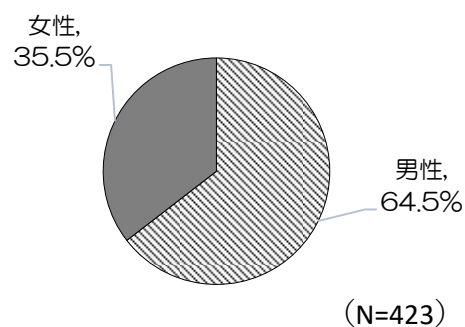
①年齢

年齢別では「40 歳代」が 32.4%と最も多く、次いで「30 歳代」となっています。



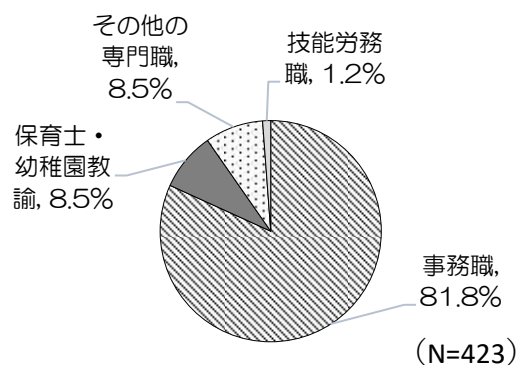
②性別

性別では「男性」が 64.5%、「女性」が 35.5%となっています。



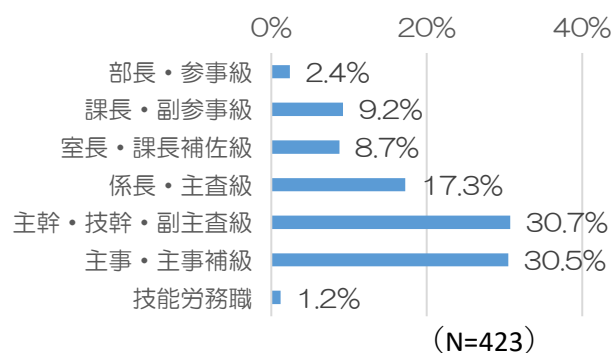
③職種

職種では「事務職」が 81.8%と最も多く、次いで「保育士・幼稚園教諭」「その他の専門職」が同率で 8.5%となっています。



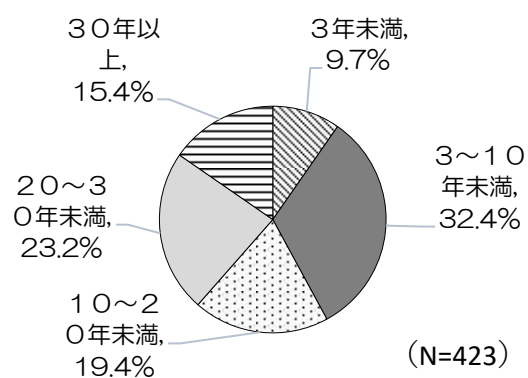
④職名

職名は「主幹・技幹・副主査級」が30.7%と最も多く、次いで「主事・主事補級」が30.5%となっています。



⑤勤続年数

勤続年数は「3～10 年未満」が32.4%と最も多く、次いで「20～30 年未満」が23.2%となっています。



2 第1期戦略プランでの施策充実度

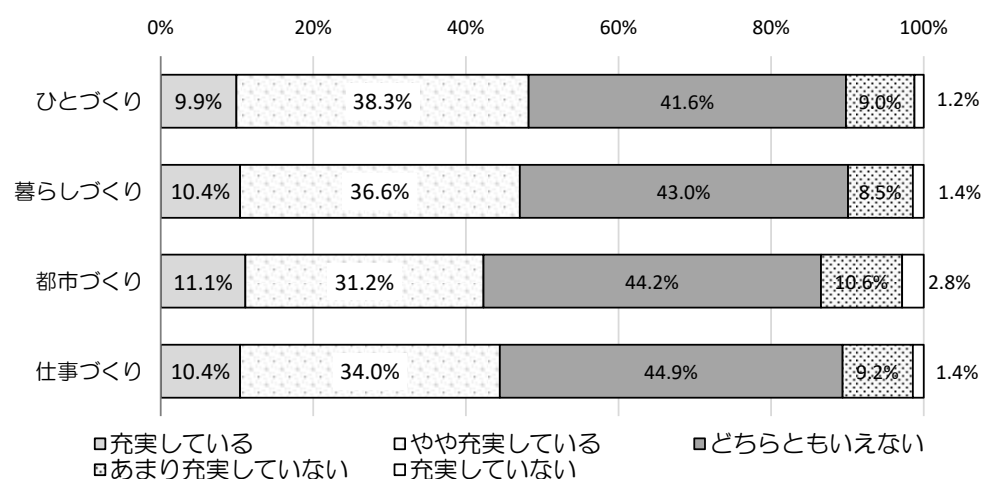
問2 「ばんどう未来ビジョン」では4つのまちづくりテーマを設定しています。各テーマごとの施策充実度についてお答えください。

「都市づくり」の評価が4本の中で最も低い

4本のまちづくりテーマ別の評価では、「都市づくり」が「充実している」「やや充実している」の評価の合計が42.3%と4本の中で最も低くなっています。

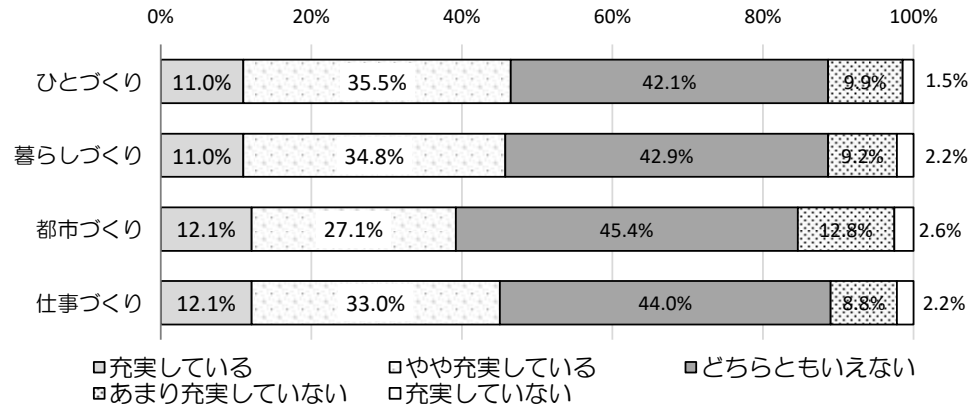
性別でみると、男性職員は、「都市づくり」に関して評価が厳しくなっています。一方、女性職員は全体的に「充実している」の評価がやや低いのが特徴です。

【全体（N=432）】

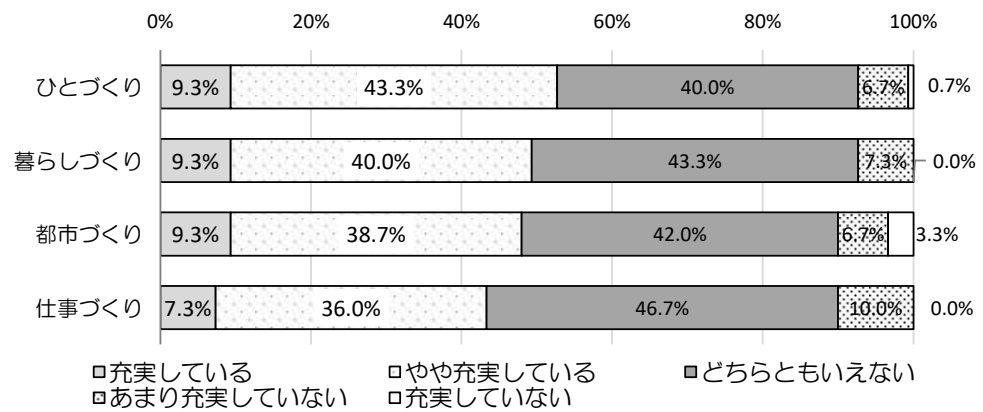


【性別】

< 男性 (N=273) >



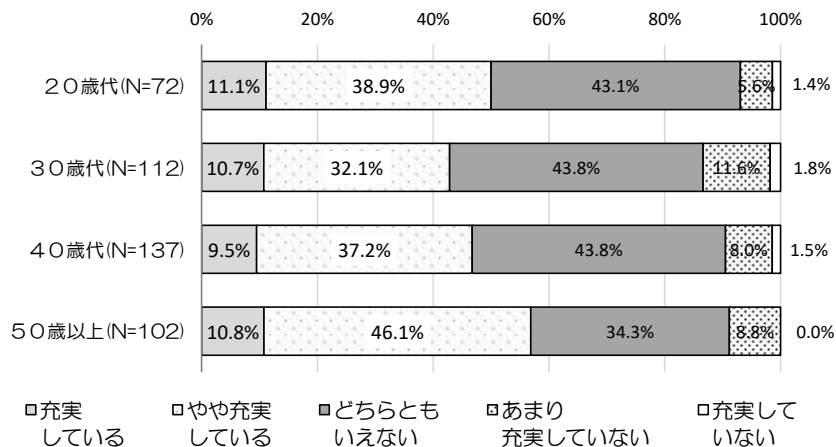
< 女性 (N=150) >



【年齢別】

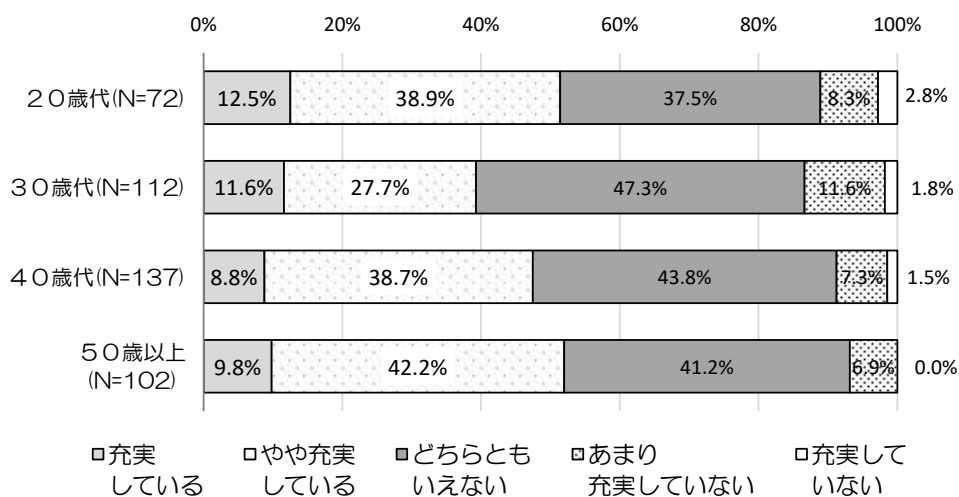
①ひとづくり

「充実している」「やや充実している」への回答が最も少ないのが30歳代である一方、最も多いのは



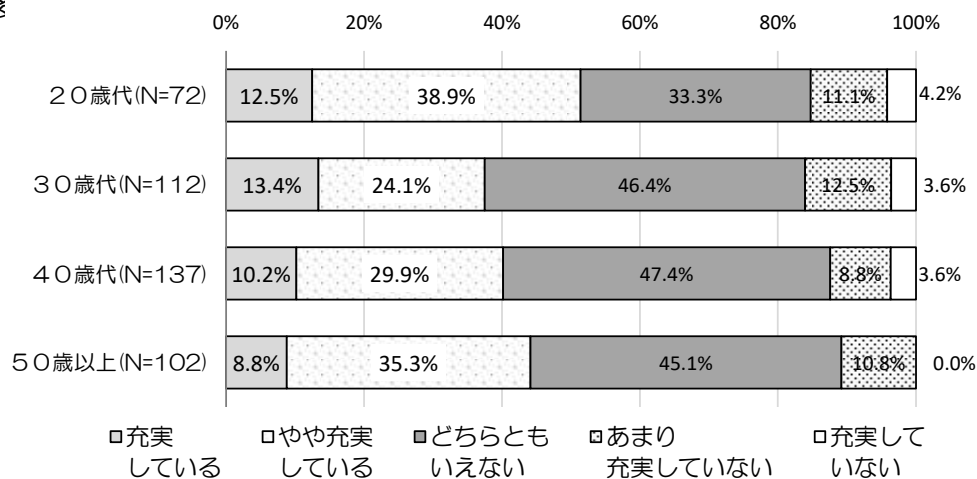
②暮らしづくり

「充実している」「やや充実している」への回答が最も少ないのが30歳代である一方、最も多いのは50歳代以上、次いで20歳代となっています。



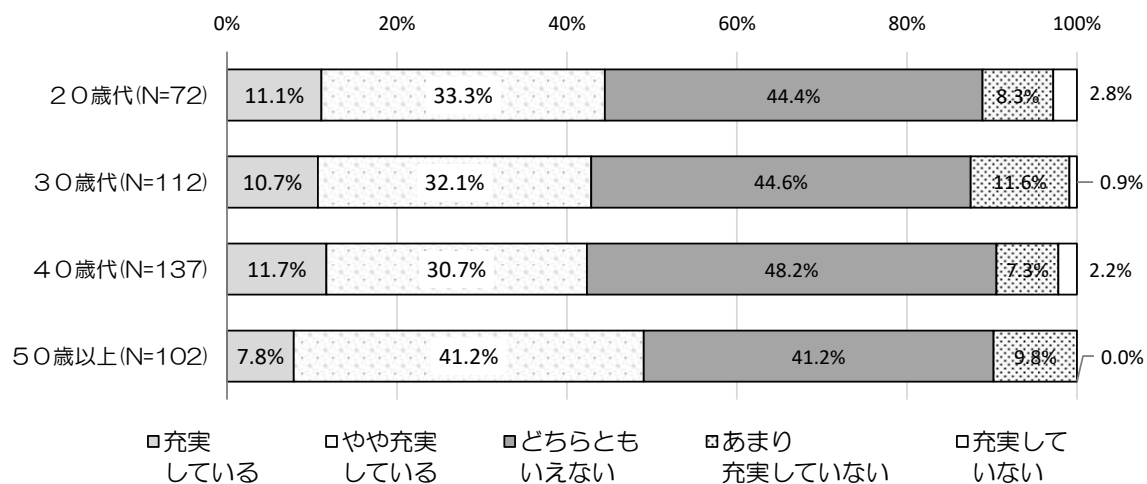
③都市づくり

「充実している」「やや充実している」への回答が最も少ないのが30歳代である一方、最も多



④仕事づくり

「充実している」「やや充実している」への回答が最も少ないのが、40歳代となっています。逆に、最も多いのは50歳代以上となっています。



3 第2期戦略プラン策定に向けて

問4 より良い市政の実現に向けて、担当業務にかかわらず、あなた個人が今後特に注力すべきと考える分野は何ですか。優先順に5つ選択してください

優先1位として最も多い分野は、「結婚・子育て」

市政について、優先1位として選択した方が多い分野は、「結婚・子育て」「乳幼児教育・学校教育」「都市計画・公共交通」「雇用・労働環境」となっています。

(%)

		優先1位	優先2位	優先3位	優先4位	優先5位
1	結婚・子育て	38.9	27.1	16.3	10.8	6.9
2	乳幼児教育・学校教育	32.5	32.5	14.0	12.8	8.3
3	生涯学習・レクリエーション	8.8	11.8	29.4	29.4	20.6
4	地域文化・芸術	14.3	22.9	14.3	20.0	28.6
5	地域福祉・高齢者、障がい者等	13.8	20.7	26.6	24.5	14.4
6	衛生・医療・社会保障	15.2	17.6	29.9	19.6	17.6
7	人権（LGBT等）・男女共同参画	4.2	8.3	16.7	33.3	37.5
8	市民協働・住民自治	14.0	15.8	14.0	26.3	29.8
9	行財政運営	16.9	21.5	15.4	23.1	23.1
10	防犯・防災	7.8	21.4	22.1	21.4	27.3
11	都市計画・公共交通	25.5	15.5	18.0	23.0	18.0
12	都市基盤（道路、公園、上下水道等）	15.1	14.0	14.0	26.9	30.1
13	廃棄物・自然環境	10.9	7.3	14.5	29.1	38.2
14	シティプロモーション	1.8	10.9	23.6	21.8	41.8
15	産業（農業）	11.1	19.2	20.2	21.2	28.3
16	産業（商業、工業等）	15.2	15.2	23.9	19.6	26.1
17	雇用・労働環境	23.6	12.7	22.3	18.5	22.9
18	観光・交流	4.5	14.6	19.1	29.2	32.6

【年代別】

年代別でみると、優先 1 位として選択した方が多い分野は、40 歳代で「乳幼児教育・学校教育」、それ以外の年代で「結婚・子育て」となっています。

	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代
優先 1 位	結婚・子育て	結婚・子育て	乳幼児教育・学校教育	結婚・子育て
優先 2 位	乳幼児教育・学校教育	乳幼児教育・学校教育	乳幼児教育・学校教育	結婚・子育て
優先 3 位	結婚・子育て	衛生・医療・社会保障	結婚・子育て 衛生・医療・社会保障	乳幼児教育・学校教育 地域福祉・高齢者・障がい者
優先 4 位	都市基盤（道路・公園・上下水道等）	乳幼児教育・学校教育	地域福祉・高齢者・障がい者	地域福祉・高齢者・障がい者 衛生・医療・社会保障 都市計画・公共交通
優先 5 位	シティプロモーション 観光・交流 地域福祉・高齢者、障がい者等	雇用・労働環境	防犯・防災	防犯・防災

【性別】

性別でみると、優先 1 位として選択した方が多い分野は、男性で「結婚・子育て」、女性で「乳幼児教育・学校教育」となっています。

< 男性 >

優先1位	優先2位	優先3位
結婚・子育て	乳幼児教育・学校教育	衛生・医療・社会保障
乳幼児教育・学校教育	結婚・子育て	結婚・子育て
都市計画・公共交通	地域福祉・高齢者・障がい者等	雇用・労働環境

< 女性 >

優先1位	優先2位	優先3位
乳幼児教育・学校教育	結婚・子育て	地域福祉・高齢者・障がい者
結婚・子育て	乳幼児教育・学校教育	結婚・子育て
都市計画・公共交通	衛生・医療・社会保障	防犯・防災

問5 機動的かつ効率的な行財政運営に向けて、担当業務に関わらず、あなた個人が特に注力すべきと考える施策をお答えください。優先順位は前述のとおりとなります。

優先1位として最も多い項目は、「組織・事務のスリム化」

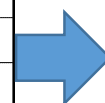
行財政運営で特に注力すべき分野の中で、優先1位として選んだ方が多い項目は、「組織・事務のスリム化」「計画的な人事異動・配置」「職員の意識改革・能力開発」となっています。

(%)

		優先1位	優先2位	優先3位
1	組織・事務のスリム化	50.3	24.3	25.4
2	各部等への政策・調整機能の設置	22.8	50.6	26.6
3	将来人口を踏まえた公共施設の再編	28.8	37.3	33.9
4	総合計画と予算の綿密な連携	31.3	36.3	32.5
5	市民や企業等の民間活力の活用	26.3	43.9	29.8
6	情報通信技術・デジタル技術の導入	31.6	24.6	43.9
7	計画的な人事異動・配置	36.7	34.9	28.4
8	施策・事業提案の活性化	18.6	23.3	58.1
9	自主財源の更なる確保	30.8	26.9	42.3
10	専門的な職員の育成	21.3	42.6	36.1
11	政策評価の実施	21.4	50.0	28.6
12	職員の意識改革・能力開発	48.3	20.0	31.7
13	その他	25.0	25.0	50.0

年代別に点数化してみると、「組織・事務のスリム化」が最も高く、「計画的な人事異動・配置」の順となっています。

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代
組織・事務のスリム化	65(2)	129(1)	55	95(1)
各部等への政策・調整機能の設置	16	28	76(3)	41
将来人口を踏まえた公共施設の再編	21	72	80(2)	63
総合計画と予算の綿密な連携	34	31	54	43
市民や企業等の民間活力の活用	42	55	74	65
情報通信技術・デジタル技術の導入	54(3)	53	96(1)	44
計画的な人事異動・配置	89(1)	94(2)	68	62
施策・事業提案の活性化	12	14	39	19
自主財源の更なる確保	26	44	49	37
専門的な職員の育成	52	91(3)	59 ₁₁	67(3)
政策評価の実施	0	9	55	11
職員の意識改革・能力開発	39	78	30	74(2)
その他	3	1	3	0



数値化した順位	
344	組織・事務のスリム化
313	計画的な人事異動・配置
269	専門的な職員の育成
247	情報通信技術・デジタル技術の導入
236	将来人口を踏まえた公共施設の再編
236	市民や企業等の民間活力の活用
221	職員の意識改革・能力開発
162	総合計画と予算の綿密な連携
161	各部等への政策・調整機能の設置
156	自主財源の更なる確保
84	施策・事業提案の活性化
75	政策評価の実施
7	その他

※優先 1 位は 3 点、2 位は 2 点、3 位は 3 点とする。

問5 人口規模を維持していくためには、若い世代の転入促進や転出抑制を図ることが必要です。担当業務に関わらず、あなた個人のアイデアがあれば記入してください。

5－① 「若い世代の転入促進」に関するアイデア

146 人より個人のアイデアとして提案や考えをいただきました。

（主な内容）

- ・子育てに関する支援や子育て環境の整備
- ・働く場所の確保や新規雇用者の居住費等に関する支援
- ・働き方改革に伴う空家の利活用
- ・新規就農者に対する支援
- ・特色ある教育の推進 など

5－② 若い世代の転出抑制に関するアイデア

109 人より個人のアイデアとして提案や考えをいただきました。

（主な内容）

- ・子育てに関する支援や子育て環境の整備
- ・働く場所の確保や新規雇用者の居住費等に関する支援
- ・公共交通の充実（補助制度） など

5－③ その他人口規模の維持に関するアイデア

78 人の職員より個人のアイデアとして提案や考えをいただきました。

（主な内容）

「子育て支援や出産等に対する助成」に関するアイデアが最も多く、次いで「市の長所を捉えた認知度、移住定住への効果的 PR の推進」へのアイデアが多くなっています。

問6 今後、坂東市として特に取り組むべき課題等（庁内・庁外問いません）は何ですか。担当業務に関わらず、あなた個人の考えがあれば記入してください。また、考えられる対応策があれば、併せて記入してください。

119人の職員より特に取り組むべき課題等として回答が寄せられました。

回答の傾向として、「施策に関する提案や課題」「職員倫理やスキルアップ研修」「市のPRに関すること」に対し、多くの意見がありました。

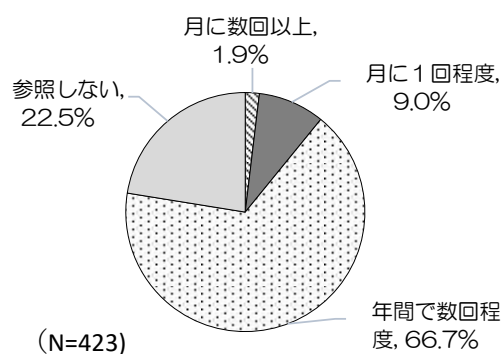
4 総合計画の参照状況

問 総合計画『ばんどう未来ビジョン』についておたずねします。
あなたは総合計画(実施計画を含む)をどの程度参照しますか。

「年間で数回程度」が 66.7%

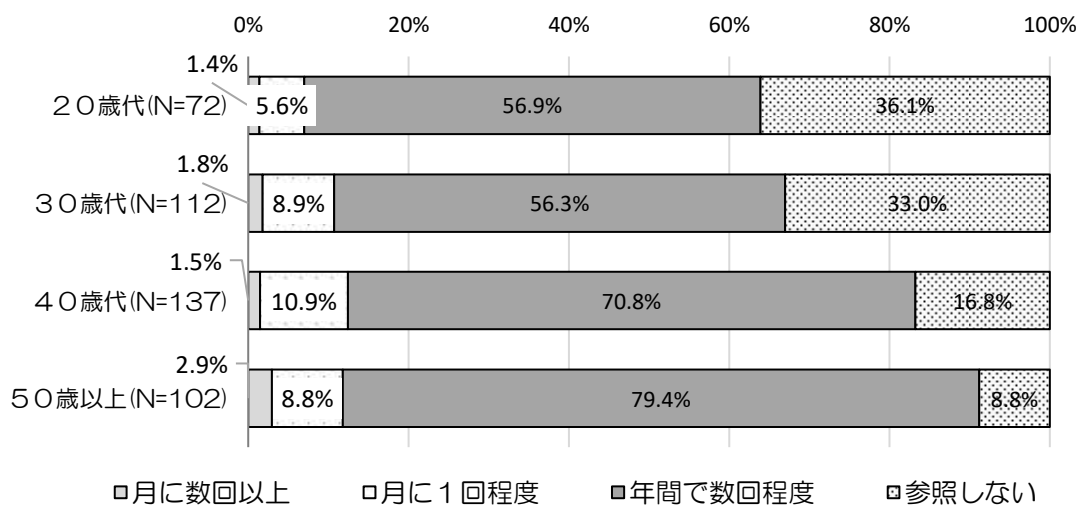
①全体

総合計画の活用状況について、全体としては「年間で数回程度」が 66.7%と最も多く、次いで「参照しない」が 22.5%となっています。



②年齢別

総合計画の活用状況について、年齢別では「年間で数回程度」の割合が、50歳代以上で最も多くなっています。一方、20、30歳代では「年間で数回程度」の割合が少なくなっており、「参照しない」が3割を超えています。

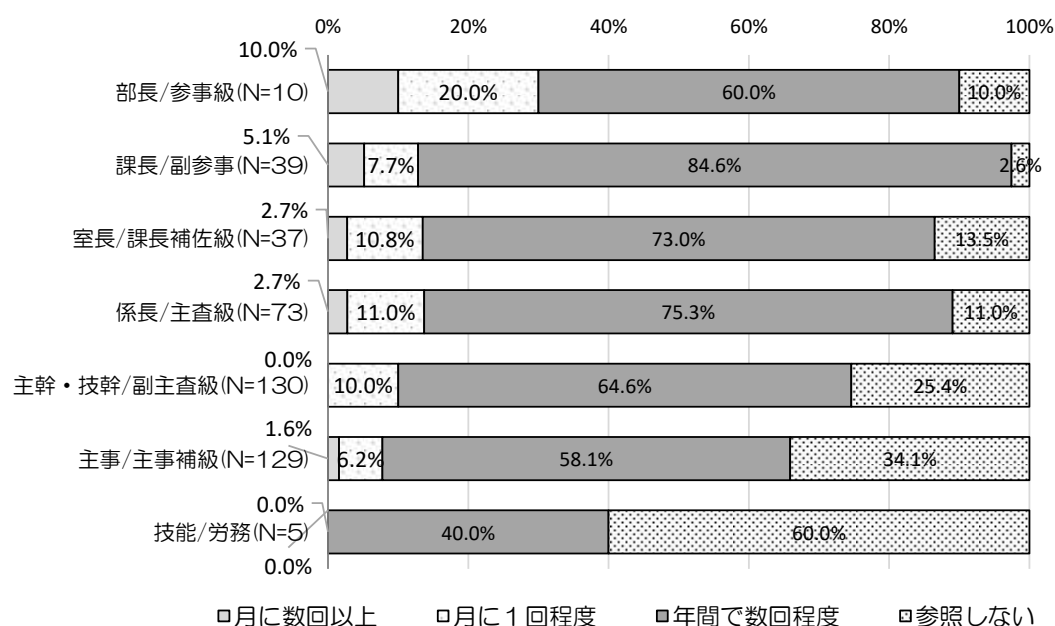


③役職別

※母数が少ないグループがあるため、比較が難しく、参考までに掲載。

役職別では「部長/参事級」で、「月に数回以上」「月に1回程度」をあわせて30.0%とやや多くなっています。

「参照しない」は、「技能/労務」「主幹・技幹/副主査級」「主事/主事補級」では割合が多く、特に「主事/主事補級」では、「月に数回以上」「月に1回程度」あわせても1割に

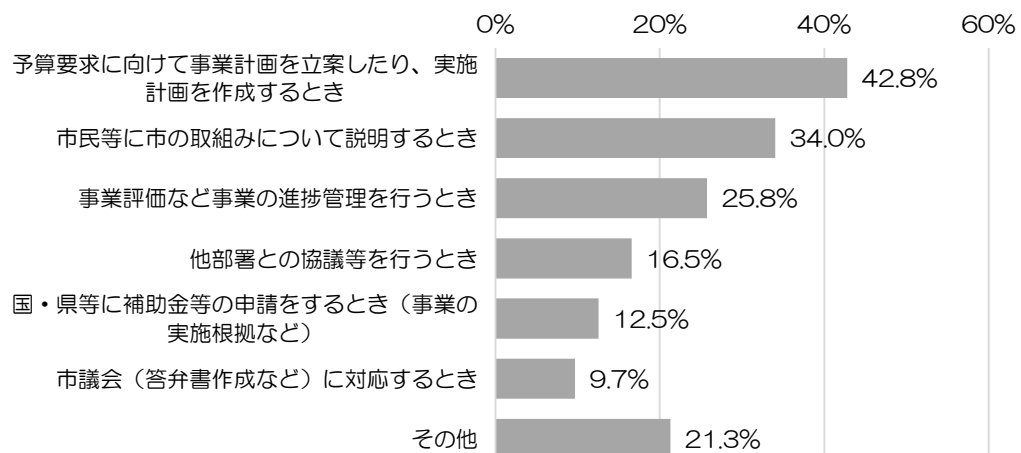


問3 総合計画『ばんどう未来ビジョン』についておたずねします。

総合計画を参照する理由は何ですか。

「予算要求に向けて事業計画を立案したり、実施計画を作成するとき」が42.8%

総合計画を参照する理由としては、「予算要求に向けて事業計画を立案したり、実施計画を作成するとき」が42.8%と最も多く、次いで「市民等に市の取組みについて説明するとき」、「事業評価など事業の進捗管理を行うとき」の順となっています。



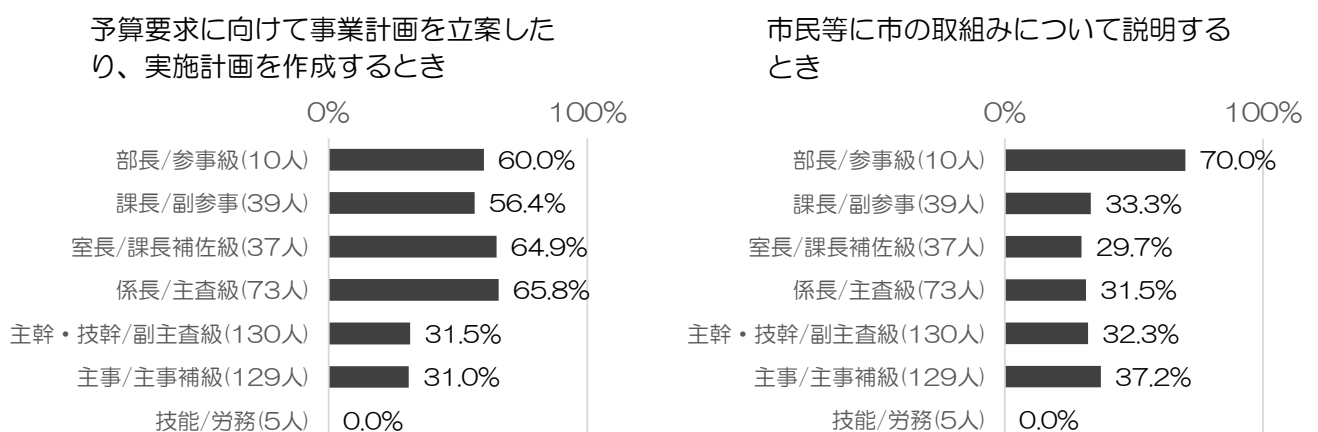
(N=423)

役職別項目ごとの分析

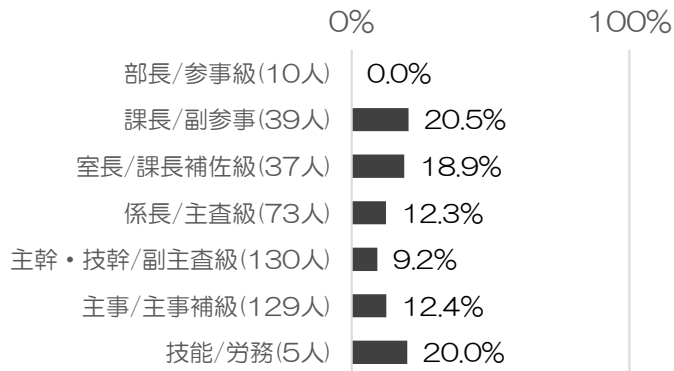
役職別でみると、「予算要求に向けて事業計画を立案したり、実施計画を作成するとき」は、「係長/主査級」以上で割合が多くなっています。

「市民等に市の取組みについて説明するとき」は「部長/参事級」が70.0%と多くなっています。

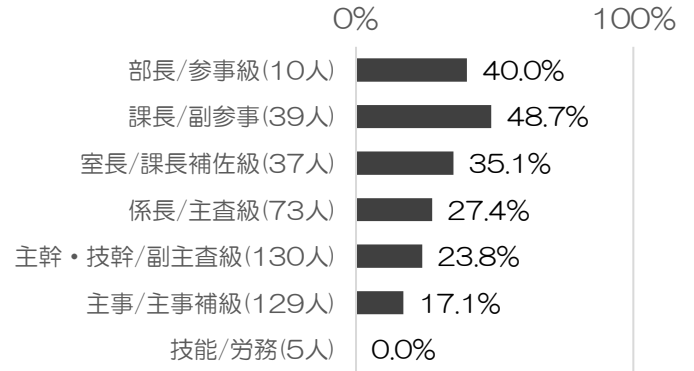
「事業評価など事業の進捗管理を行うとき」は、「課長/副参事」を筆頭に多くなっています。



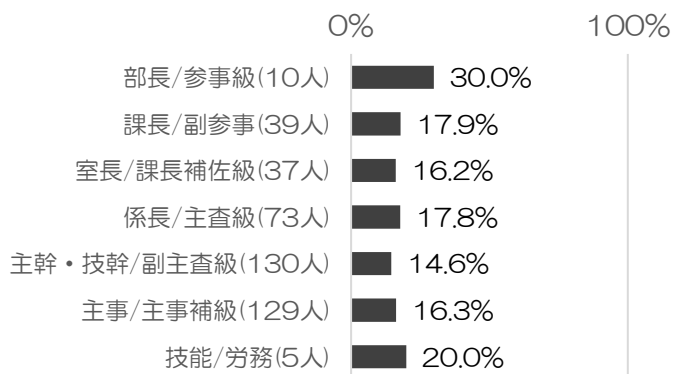
国・県等に補助金等の申請をするとき
(事業の実施根拠など)



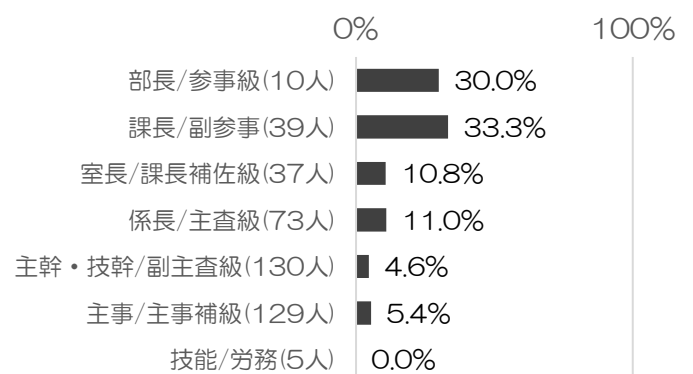
事業評価など事業の進捗管理を行うとき



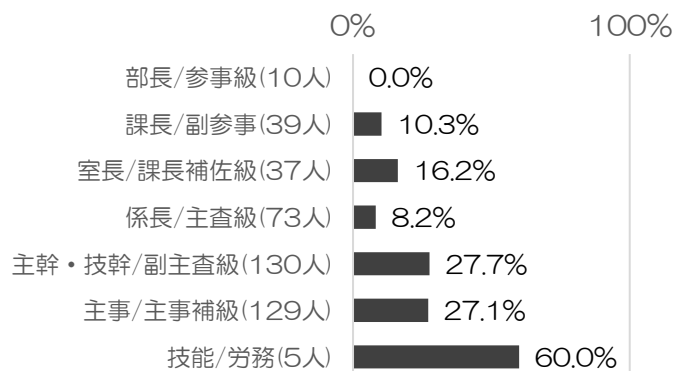
他部署との協議等を行うとき



市議会（答弁書作成など）に対応するとき



その他



問3 総合計画『ばnどう未来ビジョン』についておたずねします。

総合計画を参照しない理由は何ですか。

「参照するきっかけがないため」が 52.6%

「参照するきっかけがないため」が 52.6%と最も多く、次いで「担当する業務に必要なため」が 24.2%となっています。

